

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「題名の持つ意味について考えよう」 教材名「一つの花」

2 単元の目標

言葉が人物の思いや考えを表す働きに気付き、題名に関わる言葉を確認められる。人物の気持ちや情景を場面の移り変わりと結び付けて想像し、題名の意味を考えられる。言葉の働きを確認め、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉が人物の思いや考えを表す働きに気付き、題名に関わる言葉を確認めている。（〔知識及び技能〕(1)ア）	①「読むこと」において、人物の気持ちや情景を場面の移り変わりと結び付けて想像し、題名の意味を考えている。（C(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

題名に関わる言葉が現れる場面を比べ、人物の気持ちや情景の変化から題名の意味を考える。戦争について知っていることだけで説明せず、物語の前半と後半に書かれた暮らしや行動に戻る。学習指導要領のC(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)アを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

前半と後半の暮らし、行動、情景を対応させる。時代の語句は必要な範囲で説明し、その知識で本文にない気持ちを断定しない。題名への答えは根拠を付けて複数残す。おおむね満足できる状況は、人物の気持ちや情景を場面の移り変わりと結び付けて想像し、題名の意味を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確認める支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全10時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○全文を読み、題名への初めの考えと時代の語句を確かめる。	学習状況を見て支援する。
第2次	3～4	○前半の暮らしと人物の行動を読み、気持ちを想像する。	知①（語句や内容の整理）
	5～6	○後半の暮らしと情景を読み、前半との違いを確かめる。	学習状況を見て支援する。
	7 （本 時）	○題名に関わる言葉を前後で比べ、気持ちや情景との関係を説明する。	思①（発言・学習記録）
	8～9	○題名の意味について文章を書き、根拠を読み合う。	学習状況を見て支援する。
第3次	10	○初めの考えと比べ、場面を関係付けて読んだことを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (7/10)

(1) 本時の目標

人物の気持ちや情景を場面の移り変わりと結び付けて想像し、題名の意味を考えられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「題名の言葉は、前の場面と後の場面でどんな意味や感じをもっていますか。人物の様子や情景と結び付けて説明しましょう」 【めあて】 題名に関わる言葉が現れる場面を比べ、人物の気持ちや情景の変化から題名の意味を考える。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ言葉でも場面が変わると感じ方が異なる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「題名の言葉は、前の場面と後の場面でどんな意味や感じをもっていますか。人物の様子や情景と結び付けて説明しましょう」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ言葉でも場面が変わると感じ方が異なる。 ・暮らしの違いから人物の思いを想像できる。 ・花の描かれ方が題名を考える手がかりになる。	前半と後半の暮らし、行動、情景を対応させる。時代の語句は必要な範囲で説明し、その知識で本文にない気持ちを断定しない。題名への答えは根拠を付けて複数残す。 想定する難しさ：戦争はよくないという一般論だけになる。題名が示す物を答えるだけで意味を考えない。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 人物の気持ちや情景を場面の移り変わりと結び付けて想像し、題名の意味を考えている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】 今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・花の描かれ方が題名を考える手がかりになる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「題名の言葉は、前の場面と後の場面でどんな意味や感じをもっていますか。人物の様子や情景と結び付けて説明しましょう」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

